

今日のトピック 豪ドルの足元の状況と今後の見通し 豪ドルは底堅い推移へ

ポイント1 豪ドルの対円相場は横ばい 根強い日銀の追加緩和期待

- 豪ドルは5月以降、対円で下落歩調を辿っていましたが、6月に入ってから底堅く推移しています。
- 豪州の16年1-3月期の実質GDP成長率が前期比+1.1%と、市場予想の同+0.8%を上回ったこと、豪州準備銀行（RBA）が6月の政策決定会合で政策金利を据え置いたこと、日銀の追加緩和への期待が根強いことなどが理由です。

ポイント2 政策金利は当面据え置き 景気は緩やかな拡大見通し

- RBAは、前に述べた通り、6月7日の会合で政策金利を1.75%に据え置きました。前回5月の政策決定会合で政策金利を0.25%引き下げたこと、16年1-3月期の豪州の実質GDP成長率が事前予想の前期比+0.8%を上回る同+1.1%となったこと、などによると考えられます。
- 雇用回復や金利低下を背景とした家計支出の増加を軸に、豪州景気は拡大基調を維持する見通しです。インフレ率は、低い水準ながらも、景気の拡大とともに持ち直すと予想されます。これらを踏まえると、政策金利はしばらく据え置かれると考えられます。



(注) データ期間は2015年6月1日～2016年6月9日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

豪ドル円レートの変動要因

豪ドル円レートの変動要因		足元の状況 (豪ドルへの影響)
日豪金利差	金利差拡大で高金利通貨としての魅力が増す。	・RBAの利下げ期待の後退 (豪ドル高) ・日銀の金融緩和が継続 (豪ドル高)
資源価格	資源輸出拡大で豪ドルの買いが活発化。	・鉄鉱石価格の持ち直し (豪ドル高)
中国景気	中国向け輸出拡大で豪州景気が上向く。	・中国経済は落ち着きつつある (中立)

(出所) 三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 中国経済や日豪金利差などから見ると、豪ドルは底堅い推移へ

- 豪州経済に大きな影響を及ぼす中国の経済は、今年3月以降、住宅ブームの高まりにより、落ち着きつつあります。これに伴って、豪州の主要輸出品のひとつである鉄鉱石の価格も、持ち直しつつあります。
- 日豪の金利差に目を転じると、政策金利据え置き見通しのRBAに対し、日銀は強力な金融緩和を進める方針です。ここから金利差が一段と縮小する公算は小さいと考えられます。これらにより、豪ドルは底堅く推移する見込みです。

ここもチェック! 2016年6月7日 豪中銀、政策金利を据え置き、豪ドルは底堅く推移しよう
2016年6月1日 中国のPMI（2016年5月）中国経済は安定成長へ

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。